

2013（平成25）年度入学試験問題（後期日程）

# 小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小・中学校教科教育コース  
社会科教育専修

## 注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙のほかに、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、150分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

人々はさまざまなタイプの相互依存関係のなかで生きていく。互いの表情を直接確認したり会話を交わしたりしてその絆を確かめやすい相互依存の場もあれば、見ず知らずの不特定多数が大部分である「日本」という相互依存のまとまりもあれば、特定の商品（たとえばコーヒー）をめぐる需要・供給当事者たちの国境横断的な売買連鎖もある。気軽に参加したり脱退したりできる緩やかな任意団体もあれば、誕生・成人・婚姻・死亡などの節目にその存在を再確認することになる親族集団や同族集団もある。気の合った仲間だけでグループを結成することもあれば、好き嫌いにに関わりなく共存・共生していかざるをえない学校や職場などでの相互依存関係もある。

いかなる相互依存の場であれ、その場を構成している人々は、その場が支離滅裂で雑然としている状態に陥らないよう望むであろう。そして、一部の人たちはそのために積極的行動をとるかもしれないし、他の人たちはそれらの積極的行動に同調することで「不快な場」にならないように貢献しようとするかもしれない。

ただ、「快適な場」を実現することは難しい。その難しさは、「日本」という広範囲で多重複合的な相互依存関係のまとまりだけでなく、ごく小規模で参加・脱退の自由度の高い任意団体であっても、また婚姻契約を交わした二人だけの持続的共同関係の場合でも、それぞれ存在する。

近年、「空気を読む」とか「空気を読め」という言い回しが、若者を中心に流行しているといわれている。それは相互依存の場における「場の空気」を想定しており、また「読む」ということは察知して順応することを含意しているから、互いの表情を直接確認したり会話を交わしたりしてその絆を確かめやすい相互依存関係においてそれらの言い回しが使われやすいと思われる。そのような比較的小規模の相互依存関係の場を、**直接的コミュニケーション交流の場**と呼ぶことにしよう。

資料文は、直接的コミュニケーション交流の場において「空気を読め」という言い回しがなされることに対して問題提起したものである。資料文を読んだうえで、つぎの3つの設問に答えなさい。

設問1 資料文の論旨を400字程度でまとめなさい。

設問2 資料文で例示されているものとは別に、ある具体的な直接的コミュニケーション交流の場を想定して、誰が・誰に対して・なぜ「空気を読め」と言うのか、400字程度で例示しなさい。（ある人の発する「空気を読め」という発言が、その場の参加者たちの不快感を解消してくれる例でもよいし、逆に参加者たちをより困惑させる例でもよい。）

設問3 人々が相互依存する場において、何者かの「空気を読め」という発言に呼応して多くの参加者が「空気を読む」ことを心がけるような状況が、さまざまな相互依存関係のタイプにどんどん浸透していくと、「日本」のあり方にどのような影響をもたらすだろうか、800字程度で論じなさい。

【資料文】

非公開

非公開

非公開

非公開

(出典：鴻上尚史『「空気」と「世間」』講談社現代新書，2009年，4-5ページ，23-31ページ。)

2013（平成25）年度入学試験問題（後期日程）

## 小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小・中学校教科教育コース

社会科教育専修

## 出題の意図

### 設問1

資料文を読みこなして要約する能力をみる。

### 設問2

資料文では取りあげられていない場面状況を具体的に構想し提示できる能力をみる。

### 設問3

より多面的で広範囲の相互依存関係を視野に入れつつ一定の結論を導出する能力をみる。